

夕張市地域公共交通活性化協議会

平成24年4月1日設置



概要

夕張市は、北海道のほぼ中央、空知地方の南部に位置し、人口6,464人(令和5年10月末現在)、総面積763.07km²である。本市65歳以上の高齢人口割合は、現在、54.32%で全国や北海道の平均を大きく上回る水準で高齢化が進行している地域であり、公共交通が欠かせない移動手段である。

しかしながら、近年、公共交通事業者の収益減少や運転手不足等により、公共交通の維持が困難になってきている状況であるので、持続可能な公共交通体系の構築が喫緊の課題となっている。

○地域公共交通の現況

- ・夕張鉄道(株)(市内3路線) ・北海道中央バス(市外2路線)
- ・JR石勝線 ・スクールバス(登校6便 下校8便)
- ・市内デマンド(地域内フィダー市内2路線) 丸北ハイヤー(有)
- ・タクシー乗車代金補助制度 夕張第一交通(株)
- ・自家用有償旅客運送(夕張市 市内4路線、市外1路線)

○地域公共交通の課題

- ・交通サービス維持のための財政負担や運転手不足
- ・継続的な利用者の減少
- ・路線バス空白地も含む持続可能な公共交通の確保

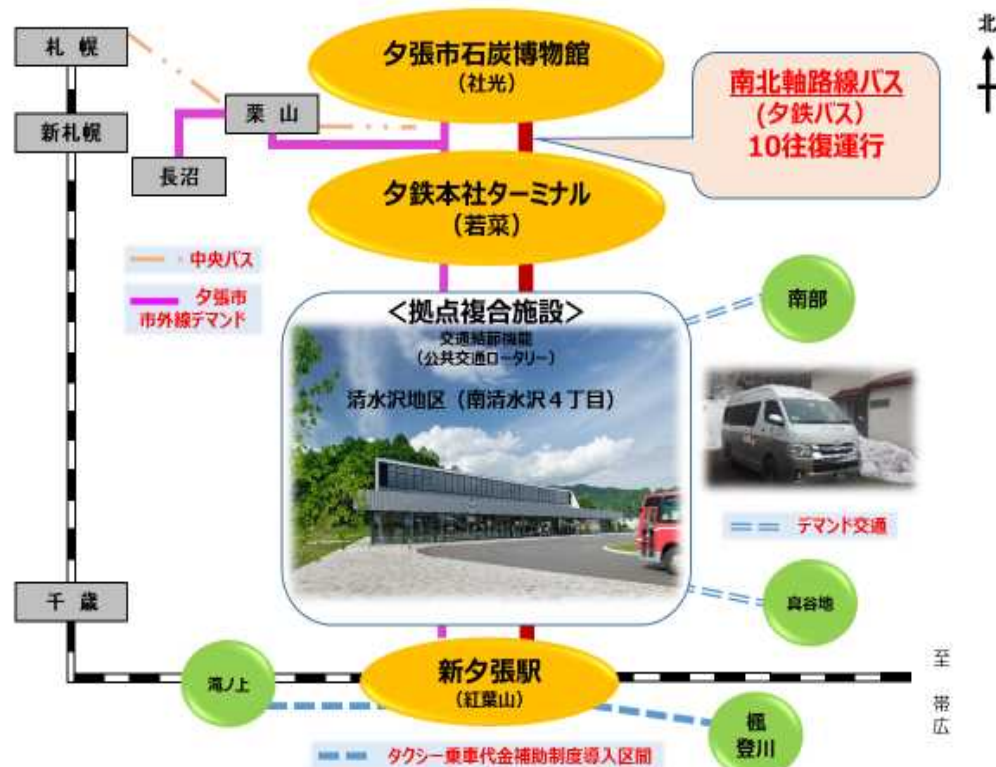
○調査の主な内容

- ・市民のニーズ調査(アンケート調査) R4年度実施済
- ・アンケート調査結果の分析、課題把握

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- 令和5年6月27日 第1回協議会を開催
- ・主な協議事項:市外路線の代替交通について
- 令和5年8月23日 第2回協議会を開催
- ・主な協議事項:市外線の自家用有償旅客運送について
- 令和5年12月8日 第3回協議会を開催
- ・主な協議事項:夕張市地域公共交通計画について

公共交通の概要



夕張市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

○市民ニーズ調査

- 調査内容:市民の「現状の移動実態」、「公共交通の利用状況」、「公共交通サービスに対する評価や取り組むべき策」などについてアンケート調査を実施した。
- 対象:市内全世帯(調査票を各世帯に2枚配布) 4,111世帯 ■回答数:1,956票(郵送)

●市民ニーズ調査の分析・課題

①市内路線に関する調査

・市内線を利用したい時間帯

時間帯	回答数 (MA)		選択率 (MA)	
	出発時間帯	帰宅時間帯	出発時間帯	帰宅時間帯
6~8時	260	10	14.5%	0.6%
8~10時	451	47	25.1%	2.7%
10~12時	283	183	15.8%	10.5%
12~14時	159	242	8.9%	13.8%
14~16時	116	279	6.5%	16.0%
16~18時	82	292	4.6%	16.7%
18~20時	59	206	3.3%	11.8%
20時以降	20	87	1.1%	5.0%
利用しない	951	943	53.0%	53.9%
設問の有効回答数	1,795	1,749		

出発時間帯では「8時~10時」が最も多く、帰宅時間帯は「16時~18時」が最も多い。

・市内線の問題点

市内線の問題点	回答数 (MA)	選択率 (MA)
行きたい所を通らない	151	11.5%
バス停が近くにない	166	12.6%
バス本数が少ない	838	63.8%
運賃が高い	429	32.7%
バス同士の乗り換えが不便	236	18.0%
JR本数が少ない	117	8.9%
JRとバスの乗り継ぎが不便	232	17.7%
有効回答数	1,313	

選択肢ごとの指摘率を見ると、「バスの本数が少ない(64%)」、「運賃が高い(33%)といった選択肢の指摘が多い。

・市内線の今後の方向性

市内線の方向性	回答数	割合
もっと負担して・便利に	237	12.1%
負担を変えず・現状維持	429	21.9%
負担を少なく・効率化	224	11.5%
交通システムの見直し	629	32.2%
その他	139	7.1%
無回答	298	15.2%
合計	1,956	100.0%

「運行経費が少ない交通システムに見直す」と答えた方が最も多い。

課題:夕張市は「安心して幸せに暮らすコンパクトシティゆうばり」の実現をに向けて、都市機能の再配置を進めているところ。本市の若菜地区、清水沢地区、紅葉山地区をつなぐ南北軸を「都市骨格軸」として位置付けている。そのため、「都市骨格軸」の公共交通の利便性確保が必要である。

②市外路線に関する調査

・札幌方面への外出目的

市外移動の目的	回答数 (MA)	選択率 (MA)
通勤・通学	63	4.0%
通院・介護	785	49.8%
買い物・飲食	1,069	67.9%
娯楽・交友	434	27.6%
その他	112	7.1%
当該設問の有効回答数	1,575	

外出目的は「買い物・飲食」が最も多く、次いで、「通院・介護」、「娯楽・交友」が多い。

・広域路線バスが廃止となった場合どこまで行ければよいか

どこまで行ければ	回答数	割合
新夕張駅	135	6.9%
栗山町	352	18.0%
由仁町	2	0.1%
長沼町	23	1.2%
南幌町	5	0.3%
江別市	34	1.7%
札幌市	883	45.1%
その他	291	14.9%
無回答	231	11.8%
合計	1,956	100.0%

「札幌市」が最も多く45%を占めた。次いで多かったのは「栗山町」で18%である。

・市外線の今後の方向

市外線の方向性	回答数	割合
もっと負担・夕鉄バスを維持	406	20.8%
もっと負担・中央バスを維持	51	2.6%
もっと負担・両方を維持	242	12.4%
デマンドバス等で市外線運行	726	37.1%
バスは必要ない	80	4.1%
その他	167	8.5%
無回答	284	14.5%
合計	1,956	100.0%

「運行経費が少ないデマンドバスなどの導入で市外線を運行する」と答えた方が最も多い。

課題:夕張市内では充足できない買い回り品などの買い物や高度専門医療の受診といった生活サービスを受けるため、札幌圏への移動手段の確保が今後も必要である。しかしながら、近年、運転手不足や利用者の減少による収益確保の問題から、広域路線バスの運行維持が非常に困難な状況となってきている。今後、夕張市においては、JRや他自治体を運行する路線バスへの接続を基本とするデマンド交通の確保が必要である。

夕張市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

③郊外部における交通調査(市内路線バス空白地区) 市内デマンド交通及びタクシー乗車代金補助制度についてのアンケート

・デマンド交通の利用目的

利用目的	回答数 (MA)	選択率 (MA)
通勤・通学	0	0.0%
通院・介護	7	77.8%
買い物・飲食	5	55.6%
娯楽・交友	0	0.0%
その他	0	0.0%
対象「利用したことがある」	9	-

・デマンド交通の不満、改善すべき点

不満や改善すべき点	回答数 (MA)	選択率 (MA)
利用方法の周知	20	30.3%
事前に料金や乗降場所が分からない	29	43.9%
電話でしか申し込み受け付けない	26	39.4%
利用したい時間帯に運行していない	19	28.8%
行きたい方向へ運行していない	8	12.1%
誰と相乗りになるか分からない	5	7.6%
料金が安い	3	4.5%
その他	11	16.7%
設問の有効回答者数	66	

・タクシー乗車代金補助制度の利用目的

利用目的	回答数 (MA)	選択率 (MA)
通勤・通学	0	0.0%
通院・介護	7	77.8%
買い物・飲食	5	55.6%
娯楽・交友	0	0.0%
その他	0	0.0%
対象「利用したことがある」	9	-

・タクシー乗車代金補助制度の不満・改善すべき点

不満や改善すべき点	回答数 (MA)	選択率 (MA)
利用方法の周知	10	41.7%
事前に利用方法の詳細が分からない	5	20.8%
電話でしか申し込み受け付けない	4	16.7%
利用したい時間帯に運行していない	6	25.0%
行きたい方向へ運行していない	1	4.2%
料金が安い	2	8.3%
その他	6	25.0%
設問の有効回答者数	24	

デマンド交通及びタクシー乗車代金補助制度ともに「通院・介護」や「買い物・飲食」の目的で利用されており、路線バスがなく、車を運転できない方にとっては貴重な公共交通となっている。しかし、それぞれ、不満や改善すべき点で、「制度の周知不足」や「利用したい時間帯に運行していない」などの意見もある。

課題: 利用目的にあった時間帯での運行や、都市骨格軸路線との接続を考慮していく必要がある。

④関係者の協力と利用促進について

・市民の目的別交通手段

交通手段 (MA)	回答数 (MA)					交通手段の選択率 (MA)				
	通勤・通学	通院・介護	買い物・飲食	娯楽・交友	その他	通勤・通学	通院・介護	買い物・飲食	娯楽・交友	その他
A.徒歩	72	75	188	68	18	8.8%	5.7%	11.8%	8.0%	5.7%
B.自転車・バイク	33	17	41	26	2	4.1%	1.3%	2.6%	3.1%	0.6%
C.自家用車	607	853	1,210	659	210	74.6%	64.6%	76.0%	77.5%	66.2%
D.路線バス	100	243	204	121	64	12.3%	18.4%	12.8%	14.2%	20.2%
E.ハイヤー	14	40	21	16	12	1.7%	3.0%	1.3%	1.9%	3.8%
F.JR	4	43	15	27	5	0.5%	3.3%	0.9%	3.2%	1.6%
G.デマンド交通	11	15	19	6	8	1.4%	1.1%	1.2%	0.7%	2.5%
H.職場等の送迎車	24	227	41	13	17	2.9%	17.2%	2.6%	1.5%	5.4%
I.その他	40	69	54	35	16	4.9%	5.2%	3.4%	4.1%	5.0%
当該設問の有効回答数	814	1,320	1,593	850	317					

割合は少ないが、「職場等の送迎車」や「その他」など路線バスや自家用車以外で移動される方もいる。

・市内線の今後の方向

市内線の方向性	回答数	割合
もっと負担して・便利に	237	12.1%
負担を変えず・現状維持	429	21.9%
負担を少なく・効率化	224	11.5%
交通システムの見直し	629	32.2%
その他	139	7.1%
無回答	298	15.2%
合計	1,956	100.0%

交通システムの見直しを求める回答が32%と最も多かった。

課題: 近年、運転手不足や利用者の減少などにより、本市の公共交通の維持については、困難な状況となってきている。その中で、今後、持続可能な公共交通を確保するためには、行政、民間、各団体などが連携・協力のもと取り組みを進めていく必要がある。また、公共交通を維持していくためには、市民や利用者に対する公共交通の利用促進やボランティア協力などを進めていく必要がある。

夕張市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

○市民アンケートのまとめ

当市の公共交通の利用頻度(ほとんど利用しない方が7割～8割程度)は低いが、一定程度(2割～3割程度)の利用者がおり、特に通院・通学・通勤など生活に欠くことができない移動手段として公共交通の維持は必要不可欠なものである。

○方針(案)

①都市骨格軸(南北軸)の公共交通サービス確保

「安心して暮らすコンパクトシティゆーぱり」の実現に向けて、「2骨格軸・3拠点」による将来都市構造の形成を目指すこととしています。その取組の一つとして、庁舎・診療所などの都市機能の再配置を進めているところです。

さらに、若菜地区、清水沢地区、紅葉山地区をつなぐ南北軸を『都市骨格軸』として位置づけており、市内での買い物・通院・通学といった日常生活や生産活動・観光など、多様な人々が往来することを想定します。

そこで、『都市骨格軸』の公共交通について一定の利便性を確保し、コンパクトな都市構造の実現に寄与するため、バス運行の確保・バス走行環境の確保・待合環境の改善などの取り組みを進めていきます。

②市外との公共交路線の維持

札幌方面・栗山/長沼方面・千歳方面など周辺市町村との接続を、「夕張市まちづくりマスタープラン(令和3年3月策定)」では『広域連携軸』と位置付けています。

夕張市内では充足できない買回り品などの買い物や高度専門医療の受診といった生活サービスを受けるため、周辺市町村との接続の確保が必要です。また、市内の観光資源を活かして観光客を呼び込むためにも、帰省や知人の来訪を受け入れるためにも接続確保が必要です。

しかし、周辺市町村との接続路線は長距離で運行効率が低いため、需要量に見合った比較的効率的な運行形態が求められます。

そこで、市外との公共交通を使った移動については、JRや他の広域バス路線との接続を基本として、デマンド交通によるサービス確保を図ります。

夕張市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

③郊外部における移動手段の確保

「夕張市まちづくりマスタープラン」では、本町地区、南部地区、真谷地地区、楓・登川地区を「地域再編地区」と位置付けて、新規居住の抑制や、住み替える場合は生活利便性の高い「拠点地区」への誘導を図ることとしています。

しかし、現在の居住者が安心して暮らし続けるためには、郊外居住者の生活の足の確保が必要です。郊外部から都市骨格軸(南北軸)への接続を基本として、買い物・通学・通院など目的にあった公共交通サービスの確保を図ります。

④関係者の協力と利用促進

厳しい社会情勢と財政環境のなか、持続可能な公共交通を実現するためには、行政、民間、各団体など多様な主体の連携・協力のもとで取り組みを進めていく必要があります。鉄道・路線バス・タクシーだけではなく、送迎サービスなど交通資源を最大限活用していきます。

また、市民・利用者についても、公共交通を使うことで支援する「利用促進」を始め、交通サービス提供に対するボランティア協力などを積極的に進めます。

本計画の策定を行った「夕張市地域公共交通活性化協議会」は、関係機関協議の場として、取り組みの着実な推進を図っていきます。

●事業実施の適切性

計画どおり実施されている。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は、計画どおり実施されている。
- ・引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。
- ・今後、地域公共交通計画策定の際は、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。